

解答例の使い方

完成文の暗記ではなく、条件と伝わり方を確認

答えを写す前に、自分の文章と例の違いを見つけましょう。別の経験や立場でも、問いに答え、条件を満たして説明できていれば認められます。

各問の「確認基準」は、この教材の振り返り用です。自分・読み手・先生が、それぞれ「できた／一部できた／直したい」で見取り、次に直す点を一つ決めましょう。合計点や全国共通の合格基準を示すものではありません。

作文例は、問題と同じ20マス・9mmの原稿欄に配置しています。「使用マス数」は段落頭の空きや途中の改行後までの空きを含み、本文だけの文字数とは別に表示します。数え方は学習ポイントと問題の冒頭を確認してください。

基礎の解答例

問いに合う別の表現も認める

問1 読み手に応じて目的を絞る

解答例 読み手：欠席した委員。

目的：会議の内容を共有する。

中心：返却箱の移動案が出た理由と、まだ検討中であること。

考え方 欠席者には、会議で何が話され、どこまで決まったかを伝える必要があります。提案する場合は、読み手が判断するための理由や検討点を中心にします。

別の答え方 読み手を図書委員会とし、利用者の動線を確認してから移動を試す案を検討してもらう、という目的でもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・読み手と目的が対応している。
- ・中心が一つに絞られている。
- ・案と決定事項を混同していない。

問2 事実と解釈を分ける

解答例 事実：三人が返却場所を探した。案内が本棚の陰にあった。

解釈：案内が見えにくい可能性がある。

調査：場所を探した生徒に、案内に気付いたか、どこで迷ったかを聞く。

考え方 観察した人数や案内の位置は記録にある事実です。案内が原因かどうかは、まだ確定していません。別の日の観察や、利用者への聞き取りで確かめる必要があります。

別の答え方 利用者に、案内に気付いたか、どこで迷ったかを尋ねる。

確認基準（この教材での目安）

- ・事実を二つ正しく取り出している。
- ・解釈と事実を区別している。
- ・追加調査が解釈の確認につながる。

基礎の解答例

問いに合う別の表現も認める

問3 主張を支える材料を選ぶ

解答例 使う材料：ア・ウ。

エは、一つの班の記録から全国の全員が満足すると断定しており、根拠が足りない。

考え方 アは課題、ウは改善後の結果を示します。イは中心と関係が薄く、エは観察の範囲を超えています。都合のよい断定を、根拠として使わないことが重要です。

別の答え方 イは、壁の色と各自の案を書く効果との関係が示されていないため、使わない。

確認基準（この教材での目安）

- ・アとウを選んでいる。
- ・材料の役割を区別している。
- ・無関係か根拠不足かを説明している。

問4 提案の筋道を組み立てる

解答例 順序：イ→エ→ウ→ア。

方法は具体的な実施内容を示し、見直しは試した結果を確かめて改善するために置く。

考え方 提案を先に示すと、読み手は何を判断する話が把握できます。試行後の見直しまで示すことで、効果を決めつけずに改善へ進めます。

別の答え方 見直しを置く理由は「実際の使いやすさは、試して確かめる必要があるから」でもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・イ・エ・ウ・アの順になっている。
- ・方法と見直しの役割を区別している。
- ・効果を事前に断定していない。

標準の解答例

問いに合う別の表現も認める

問5 抽象的な説明を具体化する

解答例 調査項目と担当を最初に共有すると、資料調べの重複が減った。結果を持ち寄って不足を補い、役割を分けた後も情報を共有する必要があると学んだ。

考え方 「協力」という抽象語を、担当の共有と不足の補充という行動に置き換えています。経験の説明があるため、学んだ内容に根拠が生まれます。

別の答え方 最初の失敗を一文で示し、担当の共有、学んだことを合わせて三文にしてもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 具体的な行動を示している。
- ・ 行動と結果がつながっている。
- ・ 学びが経験の内容と対応している。

問6 異なる立場を踏まえる

解答例 静かに読みたい人への配慮は必要だ。そこで、紹介し合う活動は隣の交流スペースで行い、図書室の静かな環境を保ちたい。

考え方 懸念を認めただうえで、場所を分ける条件を示しています。反対意見を消すことなく、両方の目的をできるだけ満たす案を考える練習です。

別の答え方 音が届く場合は掲示による本の紹介に変え、読みたい人の静かな環境を優先する案でもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 懸念を正確に捉えている。
- ・ 条件か代案が懸念への対応になっている。
- ・ 異なる立場を尊重している。

標準の解答例

問いに合う別の表現も認める

問7 根拠に合わせて結論を直す

解答例 問題点：一つの班の結果を、すべての班に広げている。

今回の班では、案を比べるうえで役立った。別の班でも試し、案を整理しやすいか確かめたい。

考え方 「必ず成功する」という断定を、確かめられた効果に限定しています。自信をなくす修正ではなく、根拠の範囲に合わせて、次の検証につなげる修正です。

別の答え方 人数が違う班でも使いやすいかを確かめる、という検証でもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・一般化しすぎた箇所を指摘している。
- ・今回の結果を正しく残している。
- ・具体的な検証を提案している。

問8 経験から得た考えを伝える

応用 | 使用マス数 120～160マス

解答例 使用マス数 135／本文の文字数 134（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	班	で	地	域	の	防	災	を	調	べ	た	と	き	、	各	自	が	同	じ	20
資	料	を	集	め	て	し	ま	っ	た	。	そ	こ	で	、	調	査	項	目	と	40
担	当	を	共	有	す	る	と	、	作	業	の	重	複	が	減	っ	た	。	さ	60
ら	に	結	果	を	持	ち	寄	り	、	不	足	し	て	い	た	避	難	場	所	80
の	説	明	を	補	っ	た	。	こ	の	経	験	か	ら	、	協	働	に	は	役	100
割	分	担	だ	け	で	な	く	、	互	い	の	成	果	を	確	か	め	て	不	120
足	を	補	う	こ	と	も	必	要	だ	と	学	ん	だ	。						140
																			160	

考え方 課題、改善の行動、結果の順に書き、最後に協働についての学びを示しています。役割分担と成果の共有という二つの行動が、結論の根拠になっています。

別の答え方 学びを「最初に目的を共有する必要がある」とする場合は、目的の違いがどのような問題を生んだかも材料に含める。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 指定のマス数と一段落を守っている。
- ・ 課題と行動と結果が対応している。
- ・ 学んだ内容に具体的な根拠がある。
- ・ 一回の経験から効果を断定しすぎていない。

問9 資料の扱いを振り返る

応用 | 使用マス数 160～200マス

解答例 使用マス数 193／本文の文字数 175（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	地	域	紹	介	の	発	表	で	、	川	の	写	真	を	見	て	、	一	年	20
中	水	が	き	れ	い	だ	と	書	い	た	。	友	人	に	撮	影	時	期	を	40
問	わ	れ	、	写	真	の	日	付	と	出	典	を	確	認	し	た	。	し	か	60
し	、	一	枚	の	写	真	で	は	他	の	季	節	の	状	態	は	分	か	ら	80
ず	、	そ	の	日	に	見	え	る	様	子	だ	け	を	説	明	す	る	文	に	100
直	し	た	。																120	
	こ	の	経	験	か	ら	、	伝	え	た	い	印	象	を	事	実	の	よ	う	140
に	扱	わ	な	い	こ	と	が	大	切	だ	と	考	え	た	。	資	料	が	示	160
す	範	囲	と	分	か	ら	な	い	点	を	区	別	し	、	読	み	手	が	判	180
断	で	き	る	説	明	を	心	掛	け	た	い	。								200

考え方「一年中」という広い主張を、資料で確認できる範囲に修正しています。二段落目では、その修正を情報の伝え方へつなげています。見た目が澄んでいることと、水質の安全性も同じではありません。

別の答え方 結論を「資料の出典と時期を確かめたい」とする場合も、なぜ必要かを経験と結び付ける。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 指定のマス数と二段落を守っている。
- ・ 元の説明の問題と修正内容が分かる。
- ・ 確認できない範囲を明示している。
- ・ 考えが経験に基づき、資料を過大に扱っていない。

問10 経験の意味を読み手へ伝える

応用 | 使用マス数 180～200マス

解答例 使用マス数 190／本文の文字数 184（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	学	校	説	明	会	で	部	活	動	を	紹	介	す	る	原	稿	を	書	い	20
た	。	初	め	は	練	習	名	を	並	べ	た	が	、	友	人	か	ら	、	小	40
学	生	に	は	意	味	が	伝	わ	ら	な	い	と	指	摘	さ	れ	た	。	そ	60
こ	で	、	一	日	の	練	習	の	流	れ	を	加	え	、	専	門	用	語	を	80
具	体	的	な	動	き	に	言	い	換	え	た	。	入	学	後	の	姿	を	想	100
像	し	て	も	ら	い	た	い	と	考	え	た	か	ら	だ	。					120
	こ	の	経	験	か	ら	、	伝	え	る	側	の	常	識	を	、	読	み	手	140
も	知	っ	て	い	る	と	は	限	ら	な	い	と	気	付	い	た	。	今	後	160
は	、	相	手	が	何	を	知	ら	な	い	か	を	考	え	、	説	明	の	順	180
序	と	言	葉	を	選	び	た	い	。											200

考え方 原稿の変更内容だけでなく、「入学後の姿を想像してもらう」という判断の理由を示しています。二段落目は、その経験を読み手に応じた説明の必要性へつなげています。実際の小学生の反応は材料にないので、成功したと断定していません。

別の答え方 掲示、行事の案内、班の発表など、自分の経験を使ってよい。誰のどんな理解を助けるために変えたかを具体化する。

別の答え方 変更後に十分伝わらなかった経験でもよい。課題と原因、次に変える点がつながれば、後輩への助言になる。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 指定の使用マス数と二段落を守っている。
- ・ 伝え方の変更内容と、その判断の理由が分かる。
- ・ 経験から得た考えが具体的な出来事に支えられている。
- ・ 今後の行動が考察につながり、未確認の結果を断定していない。